

## マリタ・リウリア (Marita Liulia) の B i o

「限界は実験を積んでしか見つけられない」

「私のアートの鉄則は、アート、リサーチ、技術の3つを結びつけ、少しのドラマ性とユーモア、そして最大量の美しさでそれら3つを刺激することです。」

アーティスト・ディレクターは、制作会社 Medeia (1997年創業) で働いており、フィンランドのヘルシンキとヘイノラで活動しています。

マリタ・リウリアは、フィンランドの国際的に知られている現代的なアーティストの1人で、彼女の作品は世界50カ国で展示されています。彼女は、メディア・アート、絵画、写真、舞台公演、短編映画、書籍、ゲームと、幅広い分野で活躍しています。

彼女のソロ展示会場となったのは、キアズマ・フィンランド国立美術館、ヘルシンキのアモスアンダーソン美術館、東京現代美術館、マドリッドのコンデュケ、バンコク国立博物館、ルクセンブルクのノイムンスター修道院、他多数です。セルラチウス博物館での『ゴールデン・エイジ』展覧会(2016年)には、100の新しい芸術作品と2冊の本が出品されました。彼女のパフォーマンスの会場となったのは、ヴェネチア・ビエンナーレ、パリのデュ・シャトレ、ニューヨークのジョイス・シアター、ワシントンのパフォーミング・アーツ・フォー・ケネディー・センター、フィンランド国立歌劇場などがあります。

リウリアは、ヘルシンキ大学で文学と政治史を専攻し(1986年学士課程修了)、ヘルシンキのアールト大学で視覚芸術を学びました。彼女の芸術家としてのキャリアは劇場で始まり、1980年代には様々な視覚的芸術作品を試作した一方、カイロとバンコクに拠点を置きジャーナリストや写真家としても働きました。

1991年、彼女は広告の世界のCD-ROMであるJackpotでデジタルインタラクティブメディアを指揮し始めました。1994年にリリースされたモダニズムの研究であるマイルは、CD-ROM形式で出版される最初の芸術作品の1つです。女性性についてのカラフルなCD-ROM「Ambitious Bitch」(1996)は、彼女の国際的な画期的な進展となりました。1999年、男性と男性性についてのCD-ROMであるSOB(Son of a Bitch)が続いた。

マリタ・リウリアの『タロット』は、2004年に6つの異なるフォーマット(ツアー展示、インタラクティブウェブゲーム、書籍、カードデッキ、携帯電話アプリケーション、およびパフォーマンス)で世に出されました。人気を博した『タロット』は、10カ国語に翻訳されました。もうひとつのマル

チ・プラットフォームの作品例である『宗教を選ぶ』は、2009年にヘルシンキのキアズマで初演されました。この世界の宗教に関する展示会ツアーの来場者数は計7万人にのぼりました。

リウリアは、Aalto 大学で初のアーティスト・イン・レジデンスとして勤務しました。勤務中は『女神の帰還』（ショートフィルム、2012 公開）、『スワン・ソング』（ダンスパフォーマンス、2014 公開、ショートフィルム、2014 公開）を指揮しました。また、彼女は世界 20 カ国の数ある大学で教壇に立っています。これまで他のアーティストとコラボレーションした実例として、ダンスとマルチメディアが複合したダンスに定評のある振付家テロ・サアリネン（Tero Saarinen）と、カルト・クラシックの『HUNT』で舞台に立ちました。このデュオでもって、世界 38 カ国で 177 回『HUNT』公演を行いました。

リウリアがかつて受賞した数ある賞の例として、オーストリアの Prix Ars Electronica 賞（1996 年）やフランスの Prix Möbius International 賞（1996 年、1999 年）があります。また、アーティストとしての業績として、フィンランド賞、フィンランド文化基金賞、Erik Enroth 賞、Stina Krook 財団賞（2008 年）も受賞しています。彼女はフィンランド政府から 5 年間の補助金を 3 度受領しました。

#### 日本でのマリタ・リウリア

マリタ・リウリアの『Tarot』は、東京の原美術館で 2004 年に展示されました。彼女は 2002 年パークタワーホールで Tero Saarinen Company と共に『HUNT』の展示も行いました。

また、早稲田大学、渡辺宇宙博物館で講演し、東京の Youkobo Art Space では常設展をもちました。彼女の次の個展は、2019 年 1 月にスパイラルで開かれます。

「自己構成で高度に熟練したリウリアは、人間に熱心に関心を持ち、強い美しさを持っています。彼女は複数の側面を有する人物です。」

日本朝日新聞・大西若人

[www.maritaliulia.com](http://www.maritaliulia.com)